

## 野菜の防寒対策

ホウレンソウ、コマツナ、シュンギクなどは、野菜のうちでも低温に強いほうで、気温 0℃程度でも生育し、ホウレンソウは- 10℃にも耐え、寒さにより甘みも増す性質も持っています。従って 9～10 月半ばまでに種まきしたものは、特に防寒しなくても厳寒期にも十分収穫できます。

しかし、冬季に枯れ葉のない軟らかな良質品を得るには、防寒対策が必要となってきます。また、計画的に播種時期を遅らせて春先まで収穫しようとする場合にも、防寒が有効です。

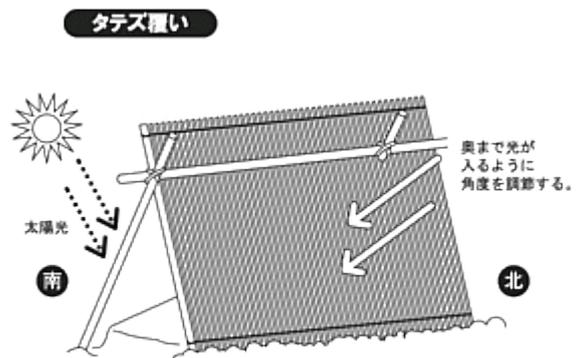
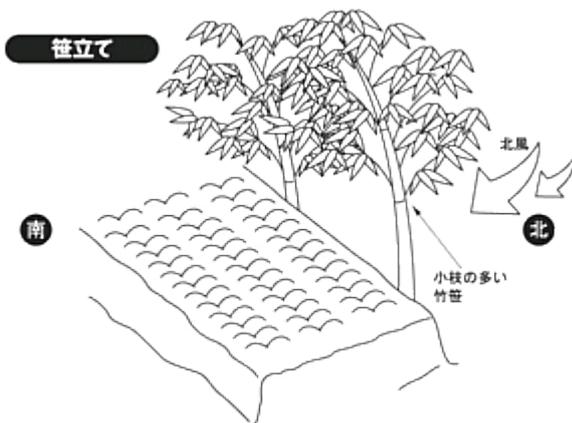
### (1) 防寒資材の利用

防寒資材としては、昔は竹笹、タテズ、ワラ等が用いられました。これらが入手できればそれでもよいのですが、今では専ら、べたがけ資材(不織布類)、ネット(寒冷紗類)、プラスチックフィルム(塩ビ、農ポリ)などが用いられます。

防寒方法は防寒資材を骨材で支えてトンネル状に被覆します。また、不織布は極めて軽量なので、葉上に直かけすると簡単に防寒できます。通気性の良い不織布やネットは両端に土をかけた後、固定用具で風に飛ばされない程度に固定します。不織布やネットは灌水や薬散は覆った上からでも十分可能なので便利です。フィルムは保温力が高いのですが、日中の気温が 27～28℃以上にも高まると育ちが軟弱になり、かえって低温障害を受けやすくなるので、頂部に穴をあけるか、裾を少したくし上げて、昇温し過ぎないようにしてやるのが大切です。

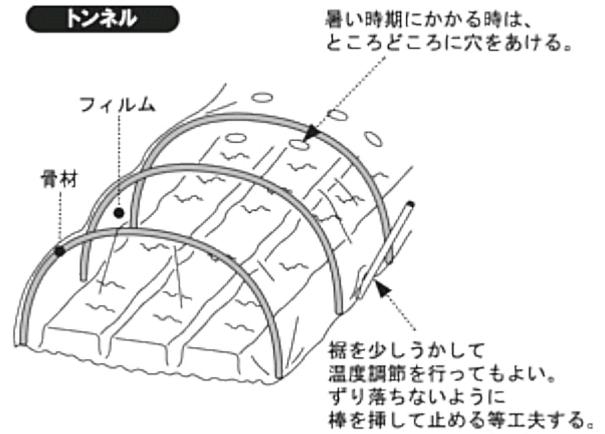
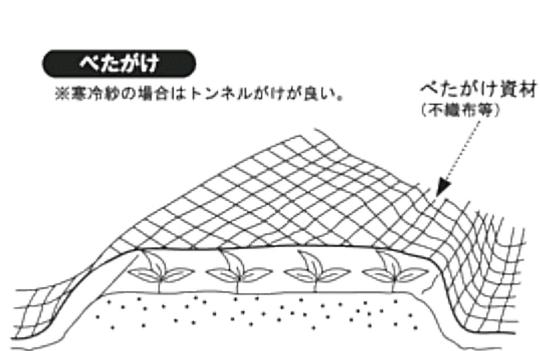
### 葉菜類の防寒対策の具体例

#### 竹笹やタテズを畝の北側にたてて北風から守る



#### 不織布のべたがけ

#### ビニールトンネル



だいこんやはくさいなどは、株元を寒さから守るために土寄せをします。また、ハクサイは外葉で縛っておくと、結球部分が防寒できます。

## (2) 霜柱対策

霜に合うと土が浮くような感じになって、根に害を及ぼし、野菜によっては枯れてしまうものがあります。株元に堆肥や敷きワラを敷いておくと霜柱の害が軽減されます。

[\(戻る\)](#)